



## 青色に関する Pastoureau の考え

フランス人の紋章学・西欧象徴体系史の学者、Michel Pastoureau (1947年生まれ) は、*Bleu: Histoire d' une couleur* (Paris: Le Seuil, 2000; 『青の歴史』松村絵理・松村剛(訳) 筑摩書房、2005) で、「文化を超えた色の真理というものはない」(3頁) と捉え古代からの青色の歴史について考察している。

青色は、起源から12世紀までは脇役的使用頻度の低い「控え目な色」、12～14世紀には急速に流行し貴族的で聖母マリアや国王を表す「新しい色」、15～17世紀には一層地位が向上し「道徳的な色」、18～20世紀には「進歩、啓蒙、夢想、自由」(134頁) を表す「お気に入りの色」になっていると指摘する。

そして21世紀にはフランス語の青(bleu)は、「魔法の言葉、誘惑し安らぎを与え夢を見させる言葉」(199頁)、「売り上げに貢献する言葉」(ibid.) になったと述べている。「空、海、休息、恋愛、旅、休暇、永遠を喚起する」(200頁) だけではなく、「安心させる詩的な言葉で、いつでも色、思い出、欲望と夢を結びつける」(ibid.) 色で、「波風をたてず、静かで平和的、距離があってほとんど中立的である」(ibid.) と指摘する。(吉村耕治)

## ●色彩データ・ライブラリの利用ー5

### カード型教材の作り方

カード型教材は、個人、または少人数の人を対象とした数枚を1セットにしたカードからなる教材です。幼稚園児や小学校低学年、福祉施設の人達を対象にした色彩教育に役立つと思っています。タブレットやパソコンが学校に普及した場合にも有効です。

8-1「カード型教材の制作方法」を学会事務局から入手してください。

基本は「起」「承」「転」「結」の4枚のカードをA4サイズの中にまとめ、切り出します。

例えばテーマを「露草色」とすれば、2枚目は「露草色の説明文」、3枚目は「露草の花の写真」、4枚目は「花の色の色票」にします。写真は自分で撮影したり、仲間や生徒さんに撮影してもらおうといいでしょう。

テーマはたくさんあります。カード制作演習の形で、カードサイズの用紙を配って、手書きで1組のセットを完成するような授業を組み立てると、多種類の教材が自然に集まり、教材が蓄積されます。

色彩教材研究会で通信教育の形で、カード型教材を作り、共有して、活用できるようになれば、楽しいのではないのでしょうか？  
誰かリーダーになってください。(永田泰弘)

## ●大辞泉ひろいよみ 43 一か

**画像**：絵にかいた肖像。えすがた。肖像画。テレビにうつる映像。

**型紙捺染**：型紙を使った手捺染。小紋・型友禅などを染める方法。

**片白**：全体の中の一部だけが白いこと。また、そのもの。

**肩白**：鎧の威毛の一つで、肩取威の一。袖の上段、立拳や綴(しころ)の上段を白色で、他を別の色で威したもの。

**型染(め)**：染色技術の一。木型・紙型などを用いて染料や糊・ロウなどの防染剤を布・紙に刷り込んで染める技法。プリント布地・更紗・紅型・友禅染めなどが、この方法による。捺染。

**形見の色**：喪服の色。鈍色。

**褐**：濃い藍色。かちいろ。かつ。かちん。襲の色目の名。表裏ともに萌葱色。ウサギの毛で織った織物。兔褐。

**かちいろ**：褐色。搗色。黒く見えるほど濃い藍色。濃紺色。「かち」は「勝ち」に通じ、縁起を担いで武具の染め色や祝賀のときに用いられた。勝ち色。かち。かちんいろ。かついろ。

**褐色威**：鎧の威の一。褐色の組糸または染め革威。勝つ色威。勝つ糸威。(永田泰弘)